

訓子府町幼保連携型認定こども園「わくわく園」

■所在地	常呂郡訓子府町旭町 75 番地	■木材使用量	689.26 m ³
■設置者	訓子府町	(うち地域材)	549.89 m ³
■構造	木造平屋建(町産材大断面集成材) 準耐火建築物	■使用樹種	
■延床面積	1,902.06 m ²	(構造)	カラマツ、トドマツ
		(内外装)	カラマツ、トドマツ、ヒノキ、 シラカバほか



◆施設の概要

本こども園は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、地域性を配慮して教育課程・保育課程を作成し、子ども子育て支援法の趣旨にのっとり、地域・保護者の子育て支援を進めております。施設建築の基本構想にあつては、森林のサイクル、地材地消への取組とし、園舎の構造材として町有林伐採のカラマツ材を使用するなど、地域産材の特性を最大限に活かした温もりある空間のなかで、幼少期における「木育」の活動として、園児には地域木材、木製品と親しむ場を提供させたいという目的のもと設置しました。また、「木」の良さを効果的にアピールできる木造の内観となっておりますので、保護者並びに町内外の来園者に向けましては、各種園内行事の開催、視察の受入れなどをはじめ、町をあげ積極的な地域材における普及PRを推進していきます。

◆工法等の特徴

コンパクトかつシンプルな平面形状として同一部材の連続架構により、構造材コストを低減し、構造部材は町有林の樹径を考慮した断面寸法としました。また、四方に開かれた平面形を活かし、一方向ラーメン構造を回廊の格子梁で繋ぐシンプルな構造を用いて、柱や梁を極力露出させる内装計画のもと、木の構造体の温かみをより感じることの出来る空間を意識しております。

◆整備に当たり苦慮したこと

工期内に完成させるため、全道的な作業員不足のなか人員の確保が大変であったと施工業者さんから伺っています。また、設計段階では人件費および資材費の上昇を受け、事業費の増額を抑制する苦労がありました。

◆利用者の声

アンケートを実施しましたが、国や北海道、市町村はこのような木造公共施設を促進すべきであるとの意見が多く、本施設を見学し、地域材利用の意義について理解が深まり、ご自宅のウッドデッキや内装に使用したいという回答がありました。また、地域の林業・製材業の活性化にも繋がるとの意見も寄せられています。